

[異常時通報連絡の公表文（様式 1 - 1）]

伊方 3 号機 原子炉補助建屋内での火災について

30. 4. 3
原子力安全対策推進監
(内線 2352)

[異常の区分]

国への法律に基づく報告対象事象		有 ・ 無 [評価レベル -]
県の公表区分		A ・ B ・ C
外部への放射能の放出・漏えい		有 ・ 無 [漏えい量 -]
異常の概要	発生日時	30年4月3日10時55分
	発生場所	1号・2号・ 3号 ・共用設備
		管理区域内 ・ 管理区域外
種類	・ 設備の故障、異常 ・ 地震、人身事故、 その他	

[異常の内容]

4月3日(火)11時7分、四国電力(株)から、伊方発電所の異常に係る通報連絡がありました。その概要は、次のとおりです。

- 1 伊方発電所にて以下のとおり119番(消防署)へ連絡した。
 現地確認時間：4月3日(火)10時55分
 119番(消防署)連絡時間：4月3日(火)11時00分
 場所：伊方3号機管理区域内
 発生状況：フォークリフトの火災を消火器により消火した。(10時56分)
 消火活動：あり
 傷病者：なし
 環境への放射能の影響：なし

[火災の状況等]

4月3日(火)11時32分、四国電力(株)から、火災の状況等について、次のとおり連絡がありました。

- 1 4月3日(火)10時55分頃、3号機原子炉補助建屋4階(管理区域内)において、フォークリフトで廃棄物空容器の運搬作業を実施中のところ、同フォークリフトから火災が発生した。
- 2 ただちに、作業員が消火器にて初期消火を実施した。
- 3 他設備への延焼はない。
- 4 消防署には同日11時00分に通報している。
- 5 今後、原因を調査する。
- 6 本事象による3号機プラントへの影響及び環境への放射能の影響はない。

県では、原子力センターの職員を伊方発電所に派遣し、消火状況等を確認しております。

(伊方発電所及び周辺の状況)

[事象発生時の状況]

原子炉の運転状況	1号機	廃止措置中	
	2号機	運転中(出力 %)	・ 停止中
	3号機	運転中(出力 %)	・ 停止中
発電所の排気筒・放水口モニタ値の状況		通常値	・ 異常値
周辺環境放射線の状況		通常値	・ 異常値

(参考)

1 国への法律に基づく報告対象事象

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律に基づき、国（原子力規制委員会原子力規制庁等）に対し、一定レベル以上の事故・故障等を報告することが義務付けられている。

国への法律に基づく報告対象事象に該当すれば、国際原子力機関が定めた評価尺度に基づき、7から評価対象外までの9段階の評価レベルが示されるので、異常の程度を判断する目安となる。評価対象外以下のものについては、安全に関係しない事象とされている。

2 県の公表区分

区分	内 容
A	○安全協定書第11条第2項第1号から第10号までに掲げる事態 （放射能の放出、原子炉の停止、出力抑制を伴う事故・故障、国への報告対象事象 等） ○社会的影響が大きくなるおそれがあると認められる事態 （大きな地震の発生、救急車の出動要請、異常な音の発生 等） ○その他特に重要と認められる事態
B	○管理区域内の設備の異常 ○発電所の運転・管理に関する重要な計器の機能低下、指示値の有意な変化 ○原子炉施設保安規定の運転上の制限が一時的に満足されないとき ○その他重要と認められる事態
C	○区分A，B以外の事項

3 管理区域内・管理区域外

その場所に立ち入る人の被ばく管理等を適切に実施するため、一定レベル（3月間に1.3ミリシーベルト）を超える被ばくの可能性がある区域を法律で管理区域として定めている。原子炉格納容器内や核燃料、使用済燃料の貯蔵場所、放射能を含む一次冷却水の流れている系統の範囲、液体、気体、固体状の放射性廃棄物を貯蔵、処理廃棄する場所等が管理区域に該当する。

異常発生場所が管理区域の内か外かによって、異常の程度を判断する目安となる。

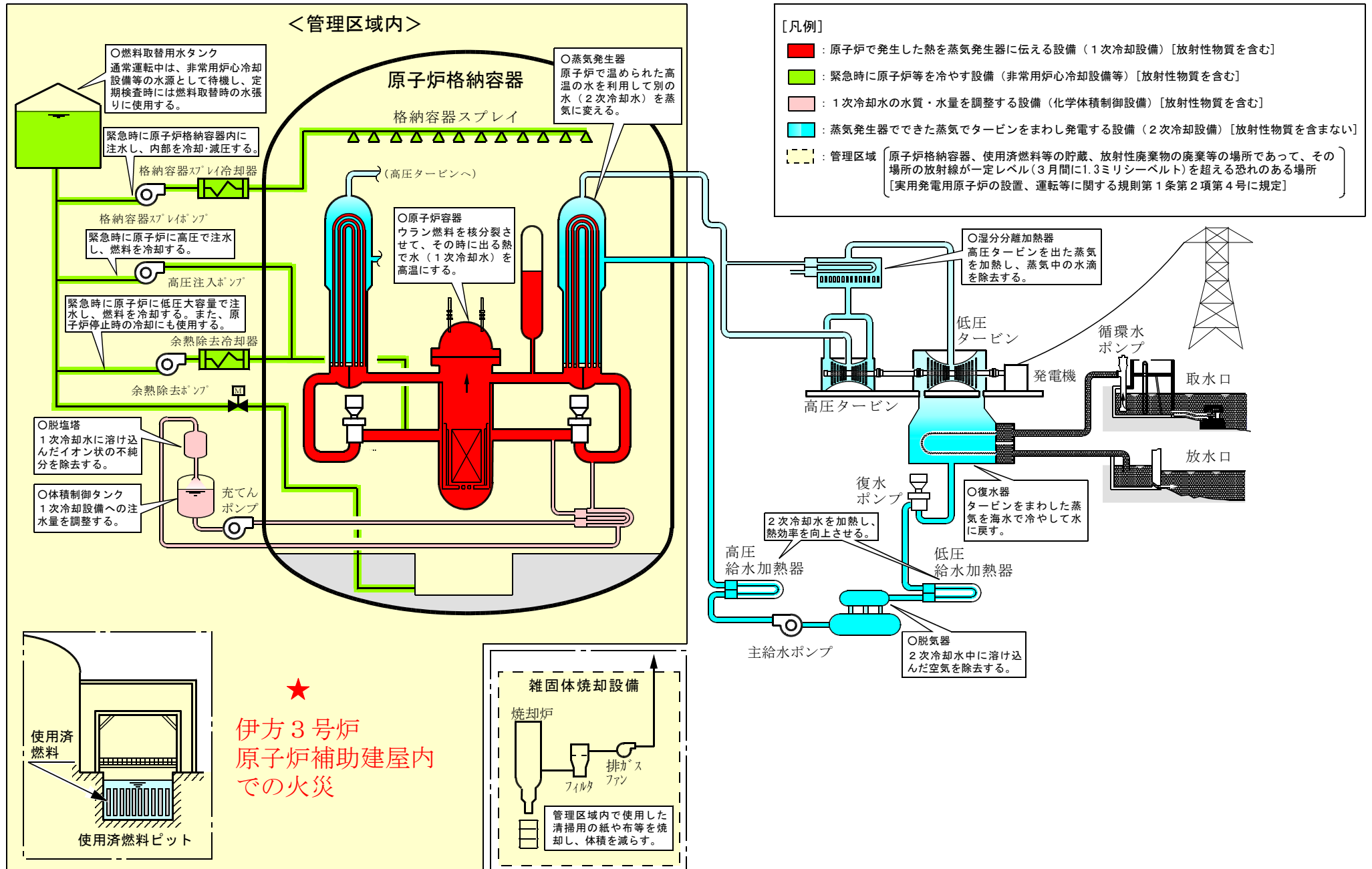
伊方発電所情報 (お知らせ)

発信年月日	平成30年4月3日 (火) 11時07分
発信者	伊方発電所 門屋
発生状況 概要	<p>伊方発電所にて以下のとおり119番(消防署)へ連絡いたしました。</p> <p style="text-align: center;">現地確認時間: 4月3日10時55分 119番(消防署)連絡時間: 4月3日11時00分</p> <p>場 所: 伊方1号機 ・ 2号機 ・ <u>3号機</u> ・ その他 <u>管理区域内</u> ・ 管理区域外 屋 内 ・ 屋 外</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>発生状況: <u>火災</u> ・ 発煙 フォトリフトの火災を消火器により 消火した。(10時56分)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>消火活動: <u>あり</u> ・ なし ・ 確認中 傷病者: あり ・ <u>なし</u> ・ 確認中 環境への放射能の影響: あり ・ <u>なし</u> ・ 確認中</p> <p>*発生初期の情報であり、今後内容が変更となる可能性があることをご了承ください。追加情報については、今後適宜連絡いたします。</p>
備 考	<p>・位置図は追加情報にて連絡いたします。</p>

伊方発電所異常時通報連絡記録票 (第 1 報)

発信者	伊方発電所 門屋	FAX発信日時	平成 30 年 4 月 3 日 11 時 32 分
受信者		FAX受信日時	平成 年 月 日 時 分
号機(定格出力)	1号機 (56 万 6 千 kW) ・ 2号機 (56 万 6 千 kW) ・ 3号機 (89 万 kW)		
発生前の状況	1. 出力 一 万 千 kW にて (通常運転・調整運転・出力上昇・出力降下) 中 2. 第 1 4 回定期検査中		
発生状況概要	設備のトラブル ・ 人身事故 ・ 火災 ・ その他		
	1. 発生時間 4 月 3 日 10 時 55 分 2. 場 所 伊方 3 号機原子炉補助建屋 4 F (管理区域内) 3. 状 況 4 月 3 日 10 時 55 分頃、3 号機原子炉補助建屋 4 階 (管理区域内) において、フォークリフトで廃棄物空容器の運搬作業を実施中のところ、同フォークリフトから火災が発生しました。 ただちに、作業員が消火器にて初期消火を実施しました。 また、多設備への延焼はありません。 消防署には 11 時 00 分に通報しています。 今後、原因を調査します。 本事象による 3 号機プラントへの影響および環境への放射能の影響はありません。 4. 非常用炉心冷却系の作動 (<input type="checkbox"/> なし ・ <input type="checkbox"/> あり)		
環境への影響	放射能	外部への放射性物質の放出	(<input type="checkbox"/> なし ・ <input type="checkbox"/> あり)
		放射性物質の放出量	(<input type="checkbox"/> なし ・ <input type="checkbox"/> 微量 ・ <input type="checkbox"/> 評価中)
		野外モニタ指示値	(<input type="checkbox"/> 異常なし ・ <input type="checkbox"/> 微小変化 ・ <input type="checkbox"/> 変化)
	そ の 他		
連絡の理由 (該当番号を○で囲む。複数可)	1. 原子力発電工作物に係る電気関係報告規則第 3 条に基づく連絡 2. 実用発電用原子炉の設置、運転に関する規則第 1 3 4 条に基づく連絡 ③ 安全協定第 1 1 条第 2 項に基づく連絡 4. その他		
当該機以外の運転状況	1号機：廃止措置中 2号機 (通常運転・調整運転・出力上昇・出力降下・ <input type="checkbox"/> 定検停止) 中 3号機 (通常運転・調整運転・出力上昇・出力降下・ <input type="checkbox"/> 定検停止) 中		
備 考			

伊方発電所 基本系統図



フォークリフト写真



周辺環境放射線調査結果 (県環境放射線テレメータ装置により確認)

平成30年04月03日 (火)

(単位：ナノグレイ/時)

測定局	時刻	測定値 (シンチレーション検出器)					平常の変動幅の最大値	
		10:30	10:40	10:50	11:00	11:10	降雨時	降雨時以外
愛媛県	モニタリングステーション (九町越)	17	16	17	17	16	44	19
	モニタリングポスト伊方越	16	16	16	16	17	40	19
	モニタリングポスト湊浦	15	16	16	15	16	37	18
	モニタリングポスト川永田	20	21	21	21	20	45	23
	モニタリングポスト九町	21	21	21	21	21	45	24
	モニタリングポスト大成	14	14	14	14	14	42	17
	モニタリングポスト豊之浦	23	23	23	23	23	52	26
	モニタリングポスト加周	25	25	25	24	25	60	29
四国電力(株)	モニタリングステーション	16	15	16	16	16	40	18
	モニタリングポストNo. 1	15	15	15	15	15	42	17
	モニタリングポストNo. 2	14	14	14	14	14	42	16
	モニタリングポストNo. 3	12	13	13	12	13	40	15
	モニタリングポストNo. 4	15	15	15	15	15	42	16

(注) 伊方発電所付近に設置しているモニタリングポスト等について記載

○ 降雨の状況：有・~~無~~

○ 伊方発電所の排気筒モニタ等にも異常なかった。

(参考)

- 環境放射線の測定値は、降雨等の気象要因や自然条件の変化等により変動するので、原子力安全委員会の環境放射線モニタリング指針に基づき、測定値を「平常の変動幅」と比較して評価しています。

「平常の変動幅」は、過去2年間(平成27、28年度)の測定値を統計処理した幅(平均値±標準偏差の3倍)としており、一般に、測定値が「平常の変動幅」の最大値以下であれば、問題のない測定値と判断されます。

- 環境放射線は線量(グレイ)で表されますが、一般的に、これに0.8を乗じて、人の被ばくの程度を表す線量(シーベルト)に換算しています。

例えば、線量率約20ナノグレイ/時の地点では、1年間に約0.14ミリシーベルト(ミリはナノの100万倍を表す)の自然放射線を受けることとなりますが、これは、胃のX線検診を1回受けた場合の4分の1程度の量です。

(放射線量の例)

